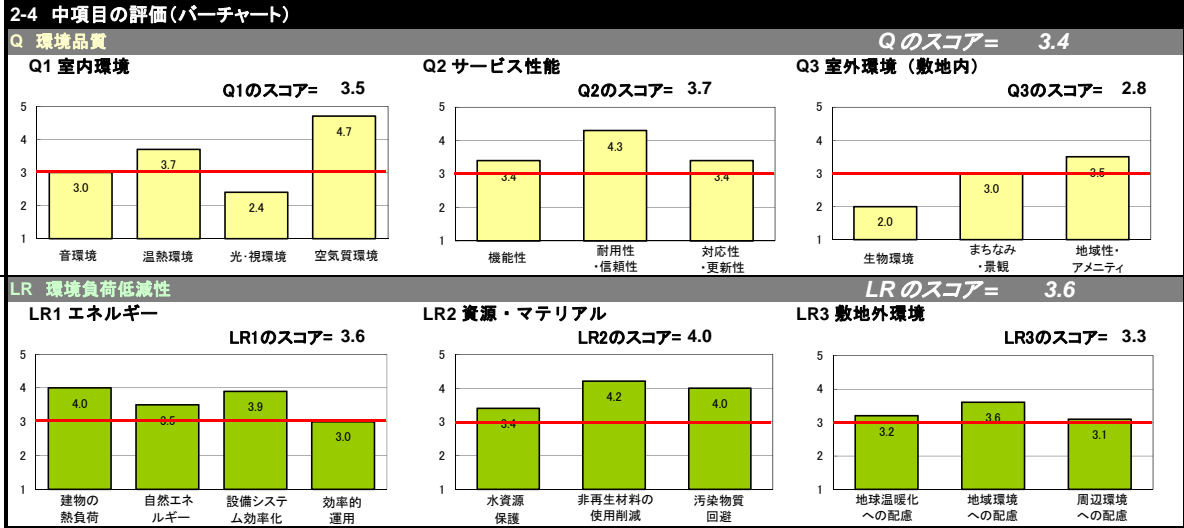
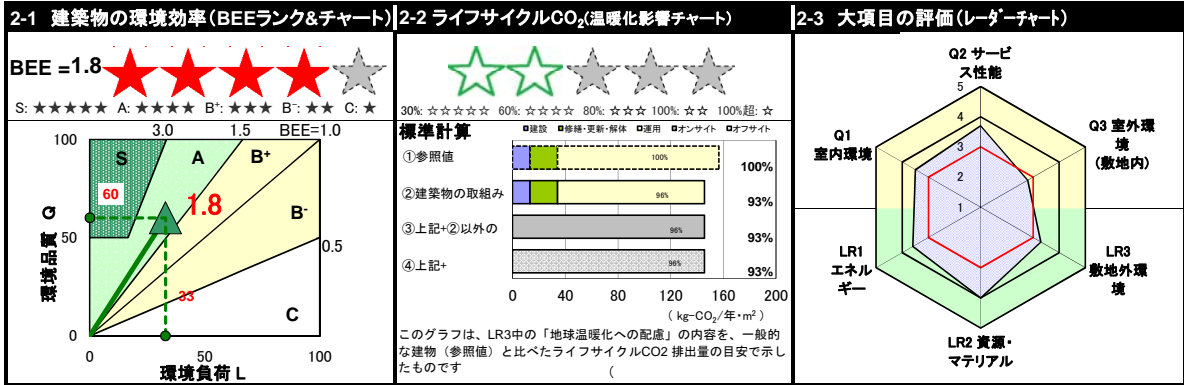


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	豊橋市民病院放射線治療棟	階数	地上3F
建設地	豊橋市	構造	RC造
用途地域	市街化調整地域、22条区域	平均居住人員	227 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	4,380 時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年4月 予定	評価の実施日	2015年3月19日
敷地面積	8,384.83 m ²	作成者	杉浦光彦
建築面積	1,992.26 m ²	確認日	
延床面積	4,134.32 m ²	確認者	



3 重点項目

①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化	外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積) 36.2 % 建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積) 1.6 %
3.2	2.0	
②資源の有効活用	④地域材の活用	<外装材に使用した地域性のある材料> なし <建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材> なし
4.0	1.0	

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用
Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積 (建築面積及び附属物面積)}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積 (法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	県独自基準	重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								3.4
Q1 室内環境								3.5
1 音環境								3.0
1.1 騒音								
1 室内騒音レベル				実施設計における目標値	5.0	1.00	-	-
2 設備騒音対策					-	-	-	-
1.2 遮音								
1 開口部遮音性能				1.0	1.00	-	-	
2 界壁遮音性能				-	-	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-	-	
1.3 吸音				3.0	0.20	-	-	
2 温熱環境								3.7
2.1 室温制御								
1 室温				3.7	0.35	-	-	
2 負荷変動・追従制御性				3.0	0.38	-	-	
3 外皮性能				3.0	0.25	-	-	
4 ゾーン別制御性				5.0	0.38	-	-	
5 温度・湿度制御				-	-	-	-	
6 個別制御				-	-	-	-	
7 時間外空調に対する配慮				-	-	-	-	
8 監視システム				-	-	-	-	
2.2 湿度制御				5.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式				3.0	0.30	-	-	
個別空調の採用、冷暖フリー型室外機の採用								
外気処理空調機により、外気を適切に室温調整								
3 光・視環境								2.4
3.1 昼光利用								
1 昼光率				2.4	0.25	-	-	
2 方位別開口				1.8	0.43	-	-	
3 昼光利用設備				1.0	0.60	-	-	
3.2 グレア対策				3.0	0.40	-	-	
1 照明器具のグレア				-	-	-	-	
2 昼光制御				-	-	-	-	
3 映り込み対策				-	-	-	-	
3.3 照度				3.0	0.21	-	-	
3.4 照明制御				3.0	0.36	-	-	
4 空気環境								4.7
4.1 発生源対策								
1 化学汚染物質				4.7	0.25	-	-	
2 アスベスト対策				5.0	0.50	-	-	
3 ダニ・カビ等				5.0	1.00	-	-	
4 レジオネラ対策				-	-	-	-	
4.2 換気								
1 換気量				4.0	0.30	-	-	
2 自然換気性能				4.0	0.50	-	-	
3 取り入れ外気への配慮				3.0	-	-	-	
4 給気計画				4.0	0.50	-	-	
4.3 運用管理				5.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視				-	-	-	-	
2 喫煙の制御				5.0	1.00	-	-	
材量すべてF☆☆☆☆、ホルムアルデヒド以外のVOC含有しない、また								
30cmH/人の換気量を確保								
外気取入口と排気口を6m以上離して設置								
敷地内禁煙								
WC壁:化粧ケイカル板、床:ビニールシート、全体的に床:ビニール、廃棄物保管庫設置、各階にSK、清掃用電源、丸環設置、排水トラップ								
Q2 サービス性能								3.7
1 機能性								3.4
1.1 機能性・使いやすさ								
1 広さ・収納性				3.4	0.40	-	-	
2 高度情報通信設備対応				3.0	0.40	-	-	
3 バリアフリー計画				3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性				3.0	0.30	-	-	
1 広さ感・景観				-	-	-	-	
2 リフレッシュスペース				-	-	-	-	
3 内装計画				3.0	1.00	-	-	
1.3 維持管理				4.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計				5.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保				4.0	0.50	-	-	
3 衛生管理業務				-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性								4.3
2.1 耐震・免震								
1 耐震性				4.3	0.31	-	-	
2 免震・制振性能				4.6	0.48	-	-	
耐震安全性の分類において、重要度係数1=1.5を考慮(建築基準)				5.0	0.80	-	-	
3.0				0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				4.2	0.33	-	-	
1 躯体材料の耐用年数				4.0	0.23	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				5.0	0.23	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				5.0	0.09	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				5.0	0.08	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				4.0	0.15	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				5.0	0.15	-	-	
給水にSUS管、ライニング管、排水に塩ビ管を採用				3.0	0.23	-	-	

2.4 信頼性					4.0	0.19			
1	空調・換気設備				3.0	0.20			
2	給排水・衛生設備				5.0	0.20			
3	電気設備				5.0	0.20			
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20			
5	通信・情報設備				4.0	0.20			
3 対応性・更新性					3.4	0.29			3.4
3.1 空間のゆとり					4.6	0.31			
1	階高のゆとり			4.3m	5.0	0.60			
2	空間の形状・自由さ			壁長さ比率0.18	4.0	0.40			
3.2 荷重のゆとり					3.0	0.31			
3.3 設備の更新性					2.8	0.38			
1	空調配管の更新性				2.0	0.17			
2	給排水管の更新性				3.0	0.17			
3	電気配線の更新性				3.0	0.11			
4	通信配線の更新性				3.0	0.11			
5	設備機器の更新性				3.0	0.22			
6	バックアップスペース				3.0	0.22			
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30			2.8
1 生物環境の保全と創出		●	③		2.0	0.30			2.0
2 まちなみ・景観への配慮		●	④		3.0	0.40			3.0
3 地域性・アメニティへの配慮					3.5	0.30			3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		●	④		3.0	0.50			
3.2 敷地内温熱環境の向上				緑地や水面を確保することにより、敷地内歩行者空間等の暑熱環	4.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-			3.6
LR1 エネルギー					-	0.40			3.6
1 建物の熱負荷抑制				PAL低減率=16%	4.0	0.30			4.0
2 自然エネルギー利用					3.5	0.20			3.5
2.1 自然エネルギーの直接利用					3.0	0.50			
2.2 自然エネルギーの変換利用				太陽光パネルを設置	4.0	0.50			
3 設備システムの高効率化				高COP空調機器の採用	3.9	0.30			3.9
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)					3.9				
集合住宅の評価					3.0				
4 効率的運用					3.0	0.20			3.0
4.1 モニタリング					3.0	0.50			
4.2 運用管理体制					3.0	0.50			
LR2 資源・マテリアル					-	0.30			4.0
1 水資源保護					3.4	0.15			3.4
1.1 節水				節水型器具の採用	4.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60			
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	0.67			
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	0.33			
2 非再生性資源の使用量削減					4.2	0.63			4.2
2.1 材料使用量の削減					2.0	0.07			
2.2 既存建築躯体等の継続使用				増築のみ	5.0	0.24			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用					3.0	0.20			
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用		●	②	あいくる材:再生加熱アスファルト混合物、再生路盤材、コンクリート	5.0	0.20			
2.5 持続可能な森林から産出された木材					2.0	0.05			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組		●		躯体+軽鉄+仕上、断熱は吹付、内装と設備錯綜せず、OAフロア	5.0	0.24			
3 汚染物質含有材料の使用回避					4.0	0.22			4.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				木部の防腐剤はクロルピリホスを含有しないものを使用	4.0	0.32			
3.2 フロン・ハロンの回避					4.0	0.68			
1 消火剤				窒素ガス消火設備を採用	4.0	0.33			
2 発泡剤(断熱材等)				押出法ポリスチレンフォーム保温板2種b、硬質ウレタンフォーム吹	5.0	0.33			
3 冷媒					3.0	0.33			
LR3 敷地外環境					-	0.30			3.3
1 地球温暖化への配慮			①	太陽光パネルの設置、高COP空調機器の採用、節水型器具の採	3.2	0.33			3.2
2 地域環境への配慮					3.6	0.33			3.6
2.1 大気汚染防止				電気式空調方式の採用	5.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善					3.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制					3.5	0.25			
1 雨水排水負荷低減		●			3.0	0.25			
2 汚水処理負荷抑制					3.0	0.25			
3 交通負荷抑制		●		外来・管理それぞれ十分な量の駐車・駐輪スペースを利用しやすい	5.0	0.25			
4 廃棄物処理負荷抑制					3.0	0.25			
3 周辺環境への配慮					3.1	0.33			3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40			
1 騒音		●			3.0	0.50			
2 振動		●			3.0	0.50			
3 悪臭					-	-			
3.2 風害・砂塵、日照阻害の抑制					3.3	0.40			
1 風害の抑制					3.0	0.70			
2 砂塵の抑制					3.0	-			
3 日照阻害の抑制				3h/2hの日影規制基準をクリアしている	4.0	0.30			
3.3 光害の抑制					3.0	0.20			
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策					3.0	0.70			
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策					3.0	0.30			

重点項目スコアシート

実施設計段階

■ 使用評価マニュアル CASBEEあいち評価マニュアル2011年度
 ■ 評価ソフト: CASBEE-NCb_2011 (bpi&bei) v.1.7_aichi

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.2
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.2	0.10	
② 資源の有効活用				
Q2-2	耐震性・信頼性	4.3	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	4.2	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	

■ 重点項目スコア算出式
 各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化
 重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和
 重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

計画上の配慮事項	
総合	<p>注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者さんが治療に専念できる放射線治療・検査環境の実現 ・スタッフの高いスキルとモチベーションを維持する職務環境の整備 ・環境配慮型医療施設の実現 ・災害対策による安全な医療環境の実現
Q1 室内環境	<p>注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>冷暖フリーの個別空調を採用し、エリアごとに最適な温度設定が行えるようにしている。また、汚染物質の発散を極力抑えた建材を使用し、換気量も多めに設定することで、清浄な空気環境を保つようにしている。</p>
Q2 サービス性能	<p>注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>清掃性・防汚性にすぐれた仕上材を使用。設備配管類も耐久性の高いものを使用。また、非常用発電機や井水の利用など、災害時などの使用にも対応できるようにしている。</p>
Q3 室外環境(敷地内)	<p>注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>壁面緑化部分に庇とベンチを設け、アメニティ性を高めている。また、夜間の出入口となる場所のまわりは見通しがよくなるようにし、照明を設置するなどして、防犯性を高めている。また、既存樹木は敷地内への移植を行っている。</p>
LR1 エネルギー	<p>注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>太陽光パネルを設置する。</p>
LR2 資源・マテリアル	<p>注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>既存建物はそのまま使用し、増築とした。また、リサイクル材を使用したり、フロンを使用しない材料を選択している。</p>
LR3 敷地外環境	<p>注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>燃焼機器を使用していない。十分な駐車・駐輪スペースを確保している。また、1ランク上の日影規制基準をクリアしている。</p>
その他	<p>注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p>